

# 7, アクセントの付け方について

【事務局からの提案】「第1案」によるアクセント付与を推奨します。

第1案：金箔が技術的に適用可能であれば、橋銘板での変化はアクセントになります。

第2案：部材毎の塗り分けは煩雑な印象が創出されやすいようです。

第3案：橋全体の塗り分けも、現況のような明快なコンセプトが無い限り、あまりよい効果は得られないようです。

第1案：橋銘板にアクセント色彩を配置	第2案：橋の特徴を示す部材毎の塗り分け	第3案：橋全体で塗り分け (アンケートで人気の高かった加賀友禅のぼかし技法の活用)
<p>橋の玄関のシンボルとも言える「橋銘板」にアクセント色彩を用いる手法です。金沢伝統工芸の1つである金箔の活用についても可能性を残しています。</p> <p>【金沢らしさ】橋全体の色彩とアクセントで表現 【シンボル性】橋全体の色彩で表現</p>	<p>本橋はその構造形式に特徴を有しています。本案は、橋の構造を目立たせる塗り分けがアクセントとなります。</p> <p>【金沢らしさ】橋全体の色彩で表現 【シンボル性】アクセントで表現</p>	<p>橋全体で、色彩を塗り分けることでアクセントとする手法です。リベットを塗り分ける、主構造（鉛直材、斜材）の中間にある細かな斜材等を塗り分ける手法が該当します。現在の橋と同じ加賀友禅のぼかし技法も、本案に該当します。</p> <p>【金沢らしさ】アクセントで表現 【シンボル性】橋全体の色彩とアクセントで表現</p>
  <p>橋銘板に金箔：効果的にシンボル性があり、金沢らしさが伝わります。橋は単色の方が、より互いに引き立つかもしれません。</p>	  <p>鉛直材を濃く：下路式曲弦ワーレントラスの形を誇張させています。</p> <p>鉛直材を濃く：歩行者目線では煩雑な印象を与えているかも知れません。</p>	   <p>現況案：川と空の色彩にぼかし技法が、周辺に馴染んでいます。</p> <p>緑のグラデーション：現況のような周囲との関係性がないようです。</p> <p>緑の横のグラデーション：シンボル性が高まっています。</p>